

(別紙)

## 令和5年度(令和4年度からの繰越分)障害福祉分野のロボット等導入支援事業 (施設等に対する導入支援) 事業報告書

※導入機器ごとの効果や目的等を把握するため、導入機器ごとにそれぞれ作成をしてください。(一体的に利用している機器を除く)

自治体名 埼玉県

### 【基本情報】

フリガナ	シャカイフクシホウジンショウトカイ
法人名	社会福祉法人聖徳会
フリガナ	キョウダイン
事業所名	行田園
施設・事業所種別(指定を複数受けている場合は、補助上限額を適用する施設・事業所を選択)	障害者支援施設
職員数(常勤換算数)【「従事者の1ヶ月の勤務時間」/「事業所等が定めている、常勤の従事者が勤務すべき1週間の時間数 × 4(週)」にて算出(産休・育休、休職は除く)】	26.2人

### (1) 主な導入機器内容(種別・機器名等)

機器の種別:  移乗介護  排泄支援  入浴支援  
 移動支援  見守り・コミュニケーション

機器名(導入台数) 眠りSCAN 8台

### (2) ロボット機器等導入前の定量的指標及びロボット機器等導入後の定量的指標

#### ① ロボット機器等導入前の業務時間内訳

業務内容	A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの平均処理時間(分)	1人あたり業務時間(G×D/A)	
		B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換		0件		#DIV/0!	
	2 排泄介助・支援		0件		#DIV/0!	
	3 生活自立支援(※1)		0件		#DIV/0!	
	4 行動上の問題への対応(※2)		0件		#DIV/0!	
	5 その他の直接介護		0件		#DIV/0!	
間接業務	6 巡回・移動	3人	150件	1,800件	20分	200時間
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)			0件		#DIV/0!
	8 見守り機器の使用・確認			0件		#DIV/0!
	9 その他の間接業務			0件		#DIV/0!
		150件	1,800件	20分	#DIV/0!	

※1 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援  
※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等  
※3 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

以下の※1及び※2については、ロボット機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

#### <※1>B.ひと月当たり発生件数の算出方法

夜勤時の夜間巡回回数  
夜間巡回回数5回×20分=100分(1日当たり巡回に要する時間)  
100分×職員3名=300分(5時間)  
300分×1か月(30日)=9,000分(150時間)

#### <※2>D.1件当たりの平均処理時間の算出方法

処理にかかった時間の合計÷発生件数

#### ② ロボット機器等導入後の業務時間内訳

業務内容	A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの平均処理時間(分)	1人あたり業務時間(G×D/A)	
		B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換		0件		#DIV/0!	
	2 排泄介助・支援		0件		#DIV/0!	
	3 生活自立支援(※1)		0件		#DIV/0!	
	4 行動上の問題への対応(※2)		0件		#DIV/0!	
	5 その他の直接介護		0件		#DIV/0!	
間接業務	6 巡回・移動	3人	150件	1,800件	12分	120時間
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)			0件		#DIV/0!
	8 見守り機器の使用・確認			0件		#DIV/0!
	9 その他の間接業務			0件		#DIV/0!
		150件	1,800件	12分	#DIV/0!	

以下の※3及び※4については、ロボット機器等導入後の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

#### <※3>B.ひと月当たり発生件数の算出方法

夜勤時の夜間巡回回数  
夜間巡回回数5回×12分=60分(1日当たり巡回に要する時間)  
60分×職員3名=180分(3時間)  
180分×1か月(30日)=5,400分(90時間)

#### <※4>D.1件当たりの平均処理時間の算出方法

処理にかかった時間の合計÷発生件数

年間業務時間数想定削減率(%)

40.0%

(3)削減率が20%を超える場合は、その要因について記載すること。

導入前は定期巡回において利用者の居室を全て訪室し睡眠状況を確認していたが、訪室することで目が覚めてしまうことも度々あった。眠りSCAN導入後は利用者の状況をPCモニターやモバイル端末で睡眠状況を確認することができ、無駄な訪室を避けることができたことから40%の削減につながった。

(4)ロボット機器等の導入により得られた効果

眠りSCAN導入により利用者の睡眠状態をモニターで把握できるようになり職員の無駄な訪室回数を減らすことができたことから、利用者においては睡眠を妨げられる機会が減った。夜勤職員においては「利用者を起こしてしまうかもしれない」という心理的負担を軽減することができた。また、離床をモニタリングできることから、夜間における移動支援、排泄介助など必要な支援を必要な時間にできるようになった。

(5)今後の課題

眠りSCANの機能「睡眠日誌」を活用し、利用者個々の睡眠特性を理解し睡眠効率を向上したい。特に夜間の離床回数が多い利用者に対して睡眠の質の向上は健康生活の質の向上につながり、職員の業務負担軽減にもつながる。

(6)気づき等について

利用者の日中活動や生活面について検討する機会は多数あったが、夜間覚醒を除く睡眠の質について検討することはあまりなかった。眠りSCANを導入したことで睡眠の質の重要性に気づくことができた。

(7)費用面での効果(ロボット機器等の導入による費用の削減の有無を必ず選択すること。)

ロボット機器等の導入による費用の削減	無
--------------------	---

ロボット機器等の導入による費用の削減が「有」の場合、以下を回答すること。

削減額(円/月)	
職員の賃上げ等への充当	
その他職場環境の改善への充当(※1)	
サービスの質の向上に係る取組への充当(※2)	

(※1)その他職場環境の改善の具体的な内容について記載すること。

--

(※2)サービスの質の向上に係る取組の具体的な内容について記載すること。

--